

服薬指導における 情報収集と情報提供について

大阪大谷大学 菊地理友

患者背景 (82歳女性)

病名: 右大腿骨頸部骨折

経過: 11/4、自宅内で転倒

11/14、右下肢荷重困難により近位整形外科受診し、
レントゲンで右大腿骨頸部骨折と診断

当院紹介受診し、11/14に入院

11/16に右人工骨頭置換術が行われる

既往歴: 脳梗塞(3年前、以降右片麻痺)

副作用・アレルギー歴: なし

家族構成: 娘と2人暮らし

持参薬

様の持参薬 2022/11/17調べ 当院(内 外 整 泌 精神 皮 婦 眼)

採用 = 銘柄違い、△規格違い、×同成分無し

他院 ()

科	続行○ 中止×	残数	薬剤名	薬効	用量 用法	採用	代替薬	11・12														備考									
								17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30		1	2	3	4	5	6	7	8	9
清水医院																															
↑	×→ ○	14	オメガ-3脂肪酸エチル粒状カプセル2g	抗血栓薬	1包 朝食直後	×																									
↑	×→ ○	7	リクシアナOD錠60mg	抗血栓薬	0.5T 朝食後	×	イグザレルト10,15																								
↑	○	13	ランゾプラゾールOD錠15mg	胃薬(PPI)	1T 朝食後	○																									
↑	○	13	アマルエット配合錠3番	降圧剤+抗コレステロール	1T 朝食後	×	アムロジピン5+アトルバスタチン5																								
↑	○	82	ヨーデルS糖衣錠-80	下剤	2T 寝る前	○																									12/27
↑	○	13	チラーチンS錠25μg	甲状腺ホルモン	1T 朝食後	○																									
↑	○		デノタスチュアブル配合錠	低カルシウム血症	2T 朝食後	×																									

飲みきり終了

変更

変更

飲みきり終了

入院中に中止・変更された薬

- ・オメガ-3脂肪酸エチル粒状カプセル、リクシアナOD錠60mg
11/15から中止、手術3日後から再開
- ・オメガ-3脂肪酸エチル粒状カプセル2g → 飲み切り終了
- ・リクシアナOD錠60mg → イグザレルト10mg に変更
- ・アマルエット配合錠3番 → アムロジピンOD5mg に変更
- ・デノタスチュアブル配合錠 → 飲みきり終了
- ・アルファカルシドール1μg → 追加

退院3日前服薬指導記録

S:(めまいはありますか?)あります
起き上がりの時とかで、ずっとは続かないです
(かかりつけ医院は)1/21(8日後)に行きます
袋(一包化)の方が飲みやすいです

O:BP:98-55
持参薬残薬数にばらつきあり(ヨーデル残薬多い)
入院前内服:自己管理、一包化なし
入院中服薬管理:Ns管理、一包化

A:全体的に血圧低めで、収縮期血圧が100を
下回る日もあり

P:1/14退院予定、一包化希望

退院時服薬指導記録・ラベルの作成

患者名 XXXXXXXXXX0

退院時指導内容

入院中処方:

【処方①】

(1) ランゾラゾールOD錠15mg「トーフ」
1錠
朝食後 8日分

(2) イグザレルト錠10mg 1錠
朝食後 8日分

(3) チラーヂンS錠25μg 1錠
朝食後 8日分

(4) アムロジピンOD錠5mg「トーフ」
1錠
朝食後 8日分

(5) アルファカルシドールカプセル1μg「サワイ」
1カプセル
朝食後 8日分

(6) ヨーデルS糖衣錠-80 2錠
眠前 8日分

指導内容:

◆入院期間: 2022/11/14-2023/1/14
右大腿骨頸部骨折の手術のため入院
11/16 OP
入院中の薬剤の変更: オメガ-3脂肪酸エチル粒状カプセル・デノタスチュアブル配合錠は飲みきり終了。リグンアナOD錠60mg0.5錠からイグザレルト10、アマルエット配合錠3番1錠からアムロジピン5に変更。その他、他院処方継続。

入院後からアルファカルシドール追加。
退院時、処方①継続。

入院中の管理: Ns管理

禁忌薬:
なし

副作用:
なし

調剤上の工夫/その他:
一包化

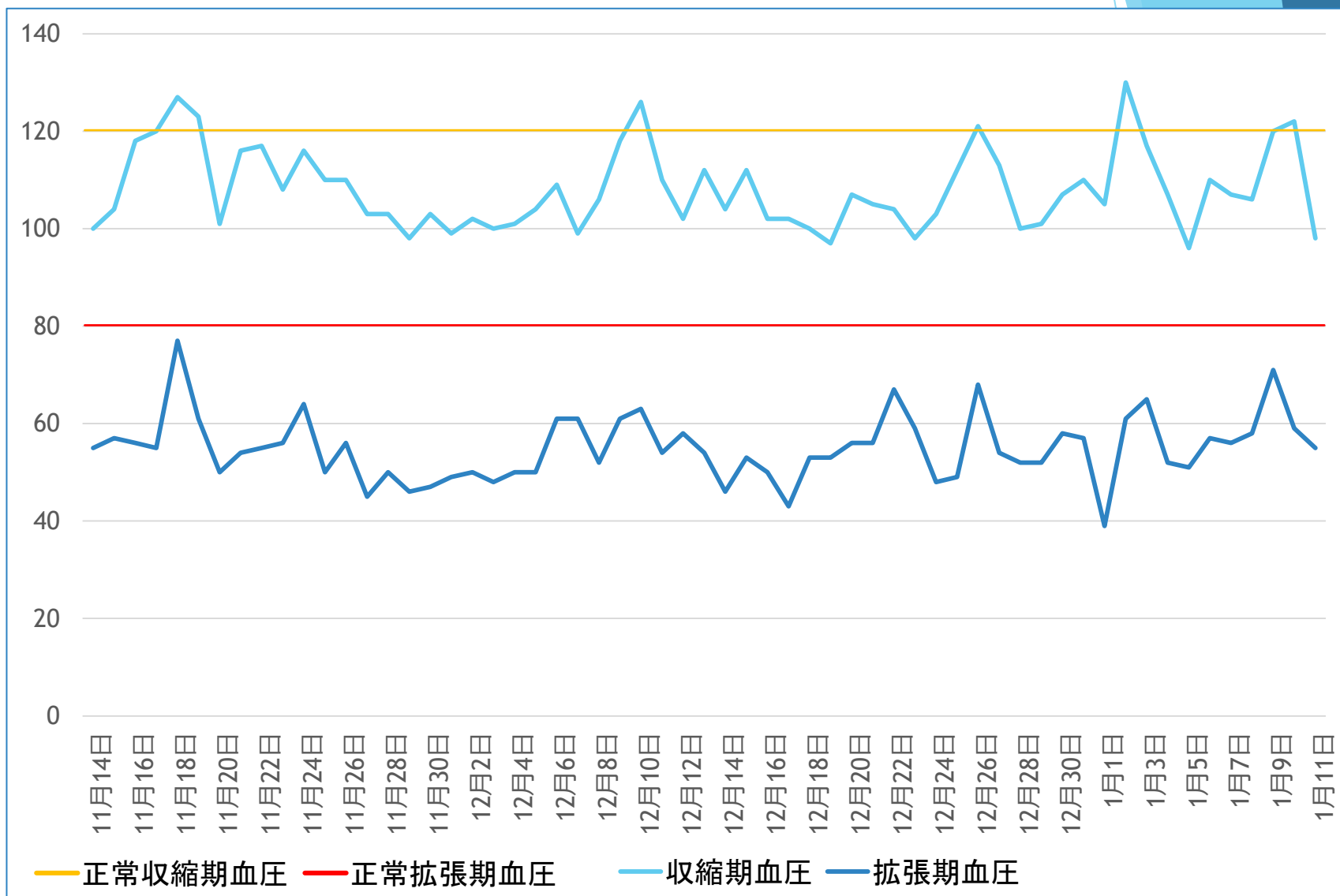
阪南中央病院・薬剤科 電話 072-333-2100

作成時のポイント

他院の処方から変更した薬、
他院からの継続や入院中に
開始した薬などの情報を
端的に書く

一包化などの調剤上の
工夫があれば書く

血压經過



副作用症状の情報収集

学校や調剤薬局では、添付文書などに記載されている副作用が出現していないかをまず患者に聞いていたが、病院では、服薬指導を行う前に検査値を確認したり、看護記録などから副作用の有無を確認して、患者への服薬指導を行っていた。



病院では事前に患者情報を入手できるため、服薬指導での副作用の聞き取り方が調剤薬局とは違うことを学んだ

薬薬連携における情報提供

調剤薬局では、前回と今回の処方内容を見比べて、入力間違いや変更がないかなどを確認し調剤していた



今回作成したラベルがあれば、入院中に変更や追加された薬剤、調剤方法などの経緯が分かりやすいため、調剤薬局での調剤に役立ち、薬薬連携に繋がるのではないかと感じた

まとめ

- ・今回、服薬指導を行うことで、患者の必要な検査値を用いて薬の効果判定を行うことの重要さを学んだ。
- ・事前に患者情報を把握し、問題点を抽出した上で聞き取りを行い、退院後の生活で服薬アドヒアランスが向上するような一包化や服用時間などの工夫の提案が必要であると感じた。
- ・服薬指導では、退院処方持参薬との変更点などを伝えることで、患者の退院後のノンアドヒアランスの予防を行うことが重要であると学んだ。